

# 全体会

わたしにとってのコミュニティ  
もの  
～見つけよう！私の大切な場所～

## 企画の趣旨

さまざまなコミュニティの中で活躍する若者たちに、どのような経緯で思い思いの活動を始めるきっかけとなったのか、抱えている不安や葛藤、そして展望について語ってもらいました。

コミュニティごとの共感や違いについて対話を深めること、また、視点の違うコミュニティに所属している登壇者がそれぞれ自身の言葉で語ってもらうことで、来場者がコミュニティについて考えるきっかけとなることを目指して開催しました。

まずは、コーディネーター谷氏より、この場で取り扱う“コミュニティ”について概説がありました。

## 高校・予備校と、ずっと“ぼっち”だった

- コミュニティの研究をしている専門家という人と話すのが巧みな人を想像しがちですが、実は高校3年間と浪人1年間の間、友達が1人もいない、いわゆる「ぼっち」でした。
- ぼっちって全然楽しくないんです。例えば、高校時代の思い出も私の場合何もありません。学校のお知らせとかも基本的に友達を通して入ってきますので、友達がいないと誰かと情報を共有する事ありません。そうすると記憶として残らないんです。1人でどこかに行くのって結構勇気がいることですし、基本的には家と学校の往復でした。
- ぼっちって、要は社会的孤立です。そうなると人はあまり他人の集団に期待を持たなくなります。そこに自分が所属しているという感覚を持っていないからです。自分を大事にしてくれる集団がないから、自分も他人を大事にしないという悪循環に陥ります。

## 大学に入学し出会った、町の力

- 大学に行ったのは大学デビューがしたかったから。もっと友達とか欲しかったので。そして、大学で入ったゼミがたまたままちづくりを研究しているゼミでした。そのゼミは学生を地域に放り込んで勉強させるゼミでして、僕も誰も知らない地域に放り込まれました。当然話も合わないですよ。また高校のようにぼっちになるかと不安に感じていました。しかし、頑張っている地域はよそ者にすごく優しいんですよ。よそから来た人をうまく溶け込ませる技術が卓越しているんですね。まちづくりは基本的にボランティアな活動なので、やってきた人を集団に溶け込ませる必要がある。その為の仕掛けが、元気な町にはたくさんある事を知りました。僕はこの集団に出会うことで、人の集団に希望を持ってました。
- まちづくりを研究していけば人と人が関係を作り出せる仕掛けがある。その仕掛けが分かると、もうぼっちになることはないですから。そう思い研究していく内にうっかり大学院まで進み、まちづくりをそのまま仕事にしてしまったのが私の現状です。

## コミュニティは他人と付き合うこと

- コミュニティとは他人と付き合うことです。当たり前ですが、他人と付き合うというのはメリットもデメリットもあります。
- 他人と付き合うメリットは、まず“楽しい”です。記憶にも残ります。そして、人づてに情報も入ってきます。人間関係も広がるし、ぼっちを嘲笑う風潮に攻撃されるリスクも下がります。ただ一方で、他人と付き合うことはコストもかかります。例えば、あんまり乗り気じゃないと思って呼ばれたら行かなければいけないこともありますよね。
- コミュニティに関わるということは、人から何かをもらいます。そうすると自分も何かを返さなきゃいけない。あなただけが得するのは駄目です。でもあなただけが損するのも駄目です。みんな得する関係じゃないといけません。あなたが何を求め、誰に何を提供し何を頂戴するかを考えると、コミュニティを考えることとなります。



## 登壇者紹介

既存の / 自身の意志選択に関係なく所属する共同体

むらい あきのぶ

村井 彰信 氏 山科醍醐子どものひろば

所属して30年目。子どもの頃から参加しており、もう“日常の一部”となってしまっているため、所属しているといった感覚が薄い。そもそも、始まりは自分の意思よりも親の思いが強かったように思う。コミュニティに参加したいと踏ん切りをつけて参加したものではありません、所属して当たり前と感じていることを話せば。

同じような境遇にあるもの同士が集う共同体

なかやま たいすけ

中山 泰輔 氏 若者と家族のライフプランを考える会(LPW)

LPWは生き辛さを抱えた若者とその家族への支援をおこなっている団体。自身もひきこもり経験者。自分がひきこもるようになり、支援団体を探していた時に出会った。

LPWは役割を与える場所なので、何をするかというのが明確にある。自助グループとしてのコミュニティについて語る事ができればと思います。登壇している。

## 人は1人でも生きていける

人は1人でも生きていけます。ただ、豊かになるには1人ではしんどいです。例えば無人島で1人で暮らしていても多分食えますし死なないですが、何かの間違いで足を滑らして落ちてしまうともう終わりです。髪型を変えたい時も美容師さんにカットしてもらえばお洒落にもらえるのに、自分で切らなきゃいけない。1人で生きることが出来たわけではないけど豊かにはなれない。豊かになろうと思ったら、他人の持っている資源にアクセスした方が良いです。そのためには皆さんも自分の持っている資源を他人に提供しなければならず、そういう関係を作っていくことを「社会的分業」と言います。自分が得意なことをやって、他の人も得意なことをやって、それを交換することでみんなが幸せになる。コミュニティを考えると「死ななければ良い」じゃなくて、「みんなでもっと豊かになろうよ。そのためにどうにかお互い協力しようよ」という、結構欲張りな考えなんです。

## 自分にとってのコミュニティを見つけるために

自分が持っているものは何か、自分が持っているものを提供することで喜んでくれる人は誰かなって、自分の頭の中にアーカイブはありません。自分も他人も幸せになれる関係、自分が得られる場所。私の大切な場所を見つけるためにひたすら勉強し、出かけ、練習しなければなりません。では、どうやったらそれを見つけれられるのか。このことを考えるにあたって、これからパネリストのみなさんが経験を語ってくれます。

ミッションを共有し、その遂行のために活動する共同体

かわかみ もにか

川上 萌仁 香氏 新大宮みんなの基地2014年度そらたねプロジェクト

団体に所属し2年目。大学に入り学校とバイト先の往復になり、近しい人との会話も減っていった時に出会った。商店街の中で知らないおっちゃん、おばちゃんから話しかけられ、自分の名前を憶えてくれるにつれて家族と話しているような居心地の良さを覚え、現在に至る。

コミュニティで活動する時に楽しい事は大事だが、「楽しい=楽」と考えている人もいる。本当に楽しい事とはしんどい事を仲間と乗り切った時に感じる事であるという事を今の団体に学んだ。

共通の趣味・関心を持つ共同体

ごとう ゆりえ

後藤 百合絵 氏 感動創造塾

団体では就職活動に対する支援をしている。インターンの企画、就活生の「分からない」を解決するためのイベントを行ったりしている。所属した背景は小学生の頃から引っ込み思案で自分からは話しかけられない性格だった。高校生の時に生徒会の役員になり、文化祭などの運営を通してイベントに興味をもつようになる。大学の学園祭の実行委員を通して、現在の団体を知った。